

NPO法人こころみ (小田原市)

## PTA活動からスタートし、子育てを通じ

■PTA活動から生まれるつながり  
 「NPO法人こころみ」は、小田原市内のPTA活動を通じて知り合ったメンバーが2018年10月に設立しました。立ち上げの中心となったのは、理事長の益田 麻衣子さんと理事の大木 健一さん。指名されたことがきっかけで始めたPTA活動でしたが、メンバーとの間で同じ課題を共有、解決していく中で強い絆ができ、任期とともに解散してしまおうのもつないたいとの

思いから、団体を立ち上げました。会社員、主婦、農家、漁師、公務員など、多種多様な職種の人々が集まり、子育てを基軸としたつながりを地域に広げています。  
 ■自然の中での学び  
 設立当初から取り組んでいるのは、子どもたちが休みの日に自然と触れ合えるイベント。地元のお米屋さんとのつながりから、じゃがいもの植え付け・収穫や田植えのイベントを

開催しました。稲刈りの時期には、刈り取った稲からおにぎりを作って食べるイベントも開催。大人たちは子どもたちを指導、見守る立場ですが、子どもたちと一緒ににおにぎりを作るのは大人にとってもとても楽しく、大人同士が親睦を深める場にもなっています。  
 ■子どもの居場所づくり  
 子どもたちが学校が終わった後、ゲームで遊んだり、本を読んだり、自由に遊ぶことができ

## た地域の輪

るよう、2019年12月、古民家を借りて、子どもたちの居場所「こころみルーム」を試験的にスタートさせました。浮かび上がってきた課題は平日の人手不足。現在は月に1〜2回の開放ですが、この課題を解決して、ゆくゆくはもっと頻度を上げていきたいとのことです。  
 ■コンセプトを伝える  
 設立当初からNPO法人としてスタートしました。法人として団体の信用度も上が

り、寄付も得やすくなります。法人設立には難しい手続きがありますが、仕事柄書類作成の得意なメンバーがあり、その点は苦にならなかったそうです。2020年2月現在で、法人の構成員は12名。個人会員、法人会員を合わせて延べ30名程度で活動しています。  
 団体のテーマは「笑顔のつながりで仕合わせをひろげる」。このコンセプトをトータルで伝えるために、デザイナーと話し合い、ホームページの作成や名刺のデザインをしてもらいました。



### 一言アドバイス デザインにはこだわって。



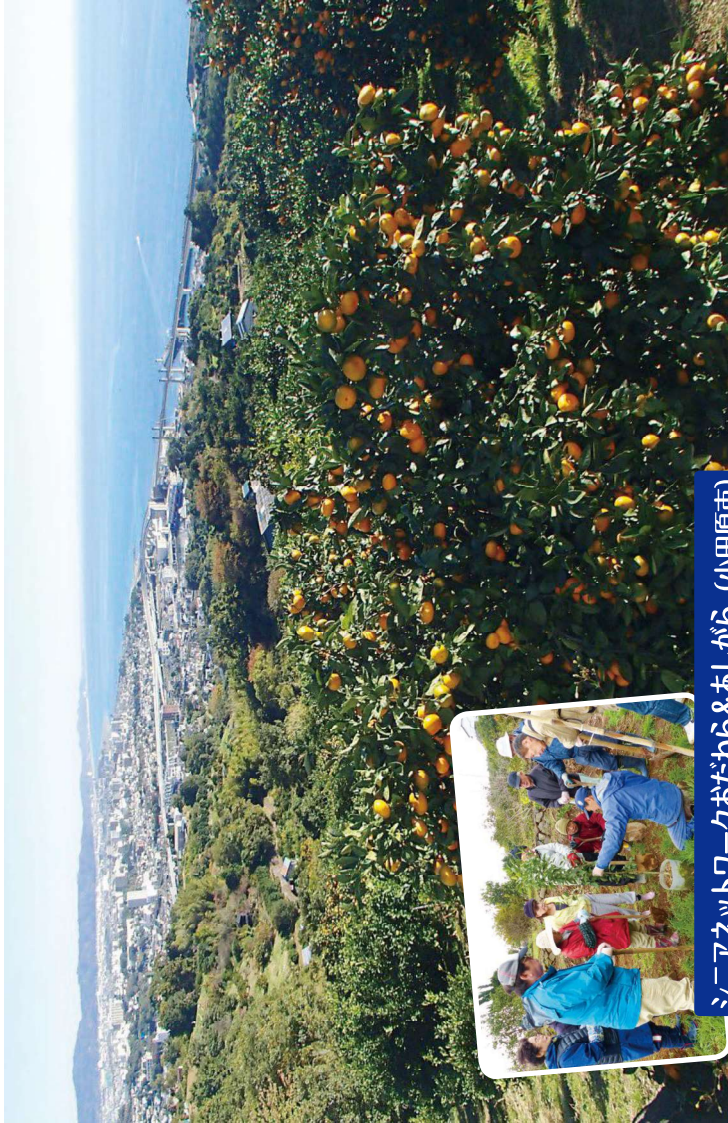
NPO法人こころみ  
 理事長 益田 麻衣子さん (写真右)  
 理事 大木 健一さん (写真左)

### 成功のコツ

- ・NPO法人とすることで団体の信用度を上げる
- ・ホームページや名刺などのデザインを大切にし、コンセプトが伝わりやすくする
- ・大人が進んで子育てを楽しんでいる姿を見せる

### ■子育ては楽しいもの

「子どもの孤独や貧困など、最近では子育ての負の側面ばかりが取り上げられがちですが、本来子育ては楽しいものです」と益田さん。大人が進んで子育てを楽しんでいる姿を見せることで、それを見た子どもたちも後に続いてくれる、そんな想いで活動を続けています。



シニアネットワークおたわら&あしがら (小田原市)

## 同級生で始めたシニア世代の居場所づくり・生

■シニア世代の経験を地元で還元したい

2015年7月、初代代表市川公雄さんの呼びかけでシニア世代6名が発起人となり、活動を始めました。きっかけは「シニア世代の人は、いろいろな分野で活躍し、資格や技能も持っている。その経験を活かして地元貢献できないか」という思いで高校の同級生に声をかけたことで、最初は情報交換が活動のベースでした。そこから活動の

幅を広げ、会員数はすでに同級生の枠を超えています。165名を数えています。

■会員同士のつながりを

現在の代表は二代目の安藤和幸さん。パソコンやスマートフォンを持っていない方も多く、会員間の連絡をどのように取るかで苦労しているのと。そんな中で大切にしているのは、会員同士で声をかけ合ってもらうことです。これが安否確認にもつながります。設立当

初から参加への敷居を下げるため、好きな時に好きな活動に参加するというスタイルを意識しています。活動拠点の「おたわら市民交流センター」では、「週活」と呼ばれる週1回の集会のほか、月に1回の集会も開催しており、これも参加は自由。このように気軽に参加できる場が定期的にできることで、会員同士のコミュニケーションが生まれています。

■自発的にやりたいことをやっている団体

また、具体的な活動内容も、会員にやりたいことを提案してもらっています。その結果、写真同好会や麻雀教室、カラオケ同好会、語らいの会、旅行同好会等々、有志の同好会が次々と生まれました。日頃のコミュニケーションができていたことから、皆さん気兼ねなく提案してくれるそうです。さらに麻雀教室では女性が半数を占めていた

### 一言アドバイス

「ささやかな場所、わずかな時間でも共感、共有できることを大切に。」



シニアネットワークおたわら&あしがら

二代目 安藤 和幸さん

### 成功のコツ

- ・課題を的確にとらえ価値に転換する
- ・敷居の低い柔軟な組織運営で男女の垣根や年齢差なども取り扱う

## きがづくり

り、ネットワークを使ったネットレスづくりにも男女で一緒に取り組んでおり、男女の垣根がないことも特徴です。

■社会課題を生きがいがづくりの場

自分たちがやりたいことをやり、そのことが新しい人と人とのつながりを生み、その中で課題をも価値に転換するという好循環が作られています。

い中高生に対し、英語に堪能な会員が補習教室を開いています。この教室から派生した「大人の英会話教室」も会員に広まっています。



このほか学習環境に恵まれない



めだかサポーターの会 (小田原市)

## めだかから広がる地域の輪

■**地域特有のめだかを守りたい**  
かつては日本中の小川に生息していた野生のめだかも、神奈川県内では小田原市内の一部で生息するのみとなりました。小田原市は童謡「めだかの学校」の生まれた場所でもあります。市ではこの在来種のめだかを保護していくことを決定し、1999年に、市民にめだかを配布し繁殖させる仕組みである「めだかのお父さんお母さん」制度をスタートさせました。こ

の制度に参加した方のうち、自宅で繁殖させるだけではなく生息地の保全にも携わりたいという思いを持った有志のメンバー30名程度で発足したのが「めだかサポーターの会」です。会を束ねる代表には、めだかや地域の環境問題について豊富な知見を持つ、山田 純さんが選ばれました。

■**地域ぐるみで取組む環境保全**  
サポーターの会では、用水路や水田でメダカなどの水生生物

を観察しながらウォーキングする「自然観察会」、水辺の清掃やザリガニなどの有害生物の駆除、パトロールを行う「環境保全活動」、市内の小学校への出張授業を行う「教育啓発活動」などを分担して様々な活動をしています。特に水辺の草刈りや水中の漂刈りは、多様な主体による環境保全につながっており、60名を超える方が活動に参加しています。小田原市以外にも、近隣の南足柄市や開成町

から参加される方もいて、今では、餅つきやスイカ割りなどのレクリエーションも実施するなど、環境保全活動は敷居が高いという方が、気軽に参加する場にもなっています。

■**活動資金獲得の知恵と自然に対する真摯な思い**  
めだかが育つには、住んでい



### 一言アドバイス

意見の衝突を恐れずに。



めだかサポーターの会  
会長 山田 純さん

### 成功のコツ

- ・レクリエーションを行うことで敷居を下げ、気軽に参加してもらう
- ・意見の対立を恐れずメンバーが自由に発言できる雰囲気づくり
- ・子どもの笑顔を、大人が参加するきっかけに

獲した米は参加者に配分し、喜ばれています。自然に対する考え方は人によって様々です。時には意見が対立することもありますが、それは自由に発言することのできる雰囲気作りができていくということ。こうした雰囲気の中で会がまとまっているのだそうです。

### ■多世代の取組みへ

大人たちで始めた活動ですが、徐々にメンバーのお子さんも参加する取組みとなっています。ゲームやスマートフォン普及した現代でも、水路や田んぼでの遊びは子どもたちが楽し

める遊びとのこと。親にとっても、普段は見られない子どもが生き生きとした表情に気づく機会となるなど、子どもの喜ぶ姿が、大人が参加する動機付けともなっており、多世代の好循環が生まれています。

